



女性技術者が現場見学

北陸地方整備局富山河川国道事務所と地盤工学会北陸支部は、張所が担当する区間で、梅本建設工業と竹沢建設がそれぞれ施工する能越道脇道路その7工事七尾氷見道路の現場見学会を開いた。同その8工事の現場を最初に訪れた。

え、各工事が輻輳（ふくそう） 一同を先導する同出張所の笹

富山河川国道と地盤工学会北陸支部

する中で、高度な安全管理と最新の工法、技術を駆使し、竣工を目指す現場に参加者は目を輝かせていた。

原紀氏は大規模盛土工事を進める上で、盛土の材料が水に弱く、地下水の流入が課題だったとし、盛土材の改良と排水対策

会場は、同道路七尾大泊インターチェンジ（IC）～灘浦1の3のうち、同事務所管段国道出

なら、トータルステーション

能越道七尾氷見道路を紹介

（TS）による出来形管理、T S・GNSS（衛星測位システム）を用いた盛土の敷き均し、締め固めの情報化施工に取り組んでいることを加えた。

今回の取り組みの発端は、女性技術者が多く従事する竹沢建設が発注者に働き掛けたのがきっかけ。「女性技術者が現場で活躍できる環境を創出したい」との思いから、長は同支部に協力を求め、地盤工学会北陸支部に協力を求めて実現に至った。同出張所では、参加者に対してアンケートを実施して、その結果を踏まえて、今後ともさまざまな取り組みを展開していく考えだ。

次は工事用道路・パイロット道路を通して、能越道中波道路その5工事（施工II竹沢建設）の現場に向かい、マシンガイダンスバックホウによる切土工事を間近で見学した。このほか、CI M（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）を活用した能越道中波1号跨道橋（施工IIオリエンタル白石）など

